

主 文

本件上告を棄却する。

上告費用は上告人の負担とする。

理 由

論旨は結局単なる訴訟法違反、事実誤認を主張するに帰し、「最高裁判所における民事上告事件の審判の特例に関する法律」（昭和二五年五月四日法律一三八号）一号乃至三号のいずれにも該当せず、又同法にいわゆる「法令の解釈に関する重要な主張を含む」ものと認められない。（原判決の原本は原裁判所において保管されている。二点の「昭和二十五年」は昭和二十六年の誤記と認むべきことは明らかである）。

よつて、民訴四〇一条、九五条、八九条に従い、裁判官全員の一致で、主文のとおり判決する。

最高裁判所第一小法廷

| | | | |
|--------|---|---|-----|
| 裁判長裁判官 | 真 | 野 | 毅 |
| 裁判官 | 斎 | 藤 | 悠 輔 |
| 裁判官 | 岩 | 松 | 三 郎 |
| 裁判官 | 入 | 江 | 俊 郎 |